

17 世紀オランダ東インド会社文書に見る Lequeo の情報

松井 洋子：東京大学史料編纂所

本データは、17 世紀初めにアジア貿易に進出したオランダ東インド会社が、当時 Lequeo をどのように認識し、記録していたのかを、オランダ東インド会社文書の中から抽出したものである。同文書は膨大な手書き史料の集積であるため、第 1 段階として、本計画では期間を 17 世紀に限定し、既刊史料集を中心に作業を行なった。使用した史料集は以下の通りである。

- 『クーン書簡集』 Colenbrander & Coolhaas eds. 'Jan Pietersz. Coen, Bescheiden omtrent zijn bedrijf in Indie.' 7vols; 1919-1953 (1616 ~ 1629)
- 『バタフィア城日誌』 Chijs, J. A. eds. 'Dagregisters gehouden in't Casteel Batavia van't passerende daer ter Plaetse als over geheel Nederlandts-India' 31vols; 1888-1931 (1624 ~ 1682)
- 『一般政務報告書』 Coolhaas & van Goor eds. 'Generale Missiven van gouverneur-generael en raden aan Heren IVII der Verenigde Oostindische Compagnie' 9vols; 1960-1988
- 『台湾ゼーランディア城日誌』 Blusse eds. 'De dagristers van het Kasteel Zeelandia, Taiwan' 1629-1655 3vols; 1986-97
- 『オランダ商館長日記』東京大学史料編纂所編 原文編・訳文編
'Dagregisters gehouden door de opperhoofden van de Nederlandse factorij in Japan.' 8vols; 1974- (1633 ~ 1644)
- 『出島日記細目』 Velde & Vermeulen eds. 'The Deshima Dagregisters, their Original Tables of Contents 1680-1986-

データの項目は以下の通りである。

「番号」

「年月日」文書の作成年月日（例 16 Mei 1616）を 8 桁の数字で表示（16160516）

「分類」文書の形式及び作成・宛先による分類。形式としては書簡、命令書、決議、報告書、日記とその他に大別できる。書簡については総督宛、総督発信、本社より総督並びに評議会宛のものを特に明示した。日記については、バタフィア城日記は単に「日記」とし、他は地名を冠した。

「作成地」文書の作成された地名。オランダ本国については史料の記載に従い「vaderland」とした。

「宛先」文書の宛先の地名、あるいは船や艦隊。個人名は捨象してある。

「出典」上記の史料集名。（Coen はクーン書簡集、G-Missiven は一般政務報告書、D- は日記を表わす。17 世紀後半の日記については上述の『出島日記細目』をもとに、原文書のページまたは

フォリオを示した。

「文言」原文の綴字をそのまま表示した。ゴシック体にしたのは明らかに琉球を指すと確定できるもの。一方、**網掛け**を用いたのは、何らかの問題や疑義があるもの。

「話題」どのような話題の中で Lequeo について言及されているのかを要約して示した。

「文脈」Lequeo の語が特定の文脈で出てくる場合、それを抽出した。

本表の内容分析については、「荒野・濱下班」の報告書を参照されたい。